

日常の大切さ

高校生に訴え

震災遺族・田村さん

東日本大震災の津波で長

男・健太さん（当時25歳）

を亡くした大崎市の田村孝

行さん（61）が28日、オンライン

で講演し、高校生に平

穏な日常と命の大切さを訴

えた。

震災の記憶の風化を防ご

うと、日本赤十字社県支部

が、震災の教訓を伝える公

益社団法人「3・11みらいサポート」（石巻市）と協力して昨年度から高校生を対象に、語り部によるオンラインでの講演会を実施している。

この日は、千葉、山口、

静岡3県5校の高校生約40

人が参加。田村さんの語り

に耳を傾けた。

健太さんは銀行の女川支

店で勤務中に震災が発生。

上司の指示で支店屋上へ避

難し、津波にのまれた。半

年後に海上で健太さんの遺

カメラの前で高校生に命の大切さを訴える田村さん（28日、石巻市で）

れた」と振り返り、「学校での勉強や部活は、もう戻らない時間。何げない時間を大切にして」と語りかけた。また、災害発生時には「自分の命を守る行動をして」と訴えた。

参加した山口県立徳山商

工高3年の女子生徒は「樂

しい日常が帰ってこない』

という言葉が心に刺さった。ハザードマップなどを見つかった。

田さんは、「健太の死を確認して、危険な場所や避

難場所を把握しておきた

が何よりの幸せと気づかさ

